

9/3

古川町出身、中京高校の内野兄弟が来訪

第66回全国高等学校軟式野球選手権大会で準優勝した中京高校の内野光一選手(主将、キャッチャー、古川町出身)と内野慎太郎選手(ピッチャー、古川町出身)が、沖畑康子教育長に結果を報告しました。

沖畑教育長は「4連覇のプレッシャーを背負いながらも2人で力を合わせて頑張ったと思います」と声をかけました。

2人は双子の兄弟で、試合ではバッテリーを組んで試合に臨みました。兄の光一さんは「ここまで来れたのは皆さんの支えがあったから。準優勝できたのは皆さんのおかげ。学んだことを次のステージに生かしたい」、弟の慎太郎さんは「コ

ロナ禍で開催できたのは関係者のみなさんをはじめとする多くの方々のおかげ。優勝旗を持ってこれず悔しい気持ちはありますが、ここで学んだことは社会で通じると思います。次のステージに向けて頑張りたい」と話されました。



9/5

飛騨「殿町青龍会」がJR飛騨古川駅前で花植えの奉仕活動

特レポ

古川祭の祭り屋台・青龍台を守る青龍組青年部OBでつくる「殿町青龍会」(中村泰己会長)が、JR飛騨古川駅前ですくすくプランターに花を植える奉仕活動を行いました。

今年で9年目を迎えた飛騨吉城特別支援学校との交流活動の一環。今回は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、あらかじめ同校の児童・生徒がカラフルな絵を描いたプランターを使って、会員20人が花の苗を植えました。

プランターはマリーゴールドや黄花コスモスなど6種類の花をあしらった寄せ植えで、全部で20個作りしました。水やりなど花の世話は同校の子どもたちが行います。

中村会長は「殿町を美しい花で飾り、美観とあいさつが絶えない環境を創り出したいと思います。支援学校の生徒さんには花の世話でも協力していただくので、学校とのつながりも、より深まります」と話していました。



9/17

立3週間にわたって飛騨市で観光インターンシップ

教大学観光学部3年の古川恵理さんが成果発表

8月30日から約3週間にわたり、飛騨市内で観光インターンシップを行った立教大学観光学部3年の古川恵理さんが、飛騨市役所で成果発表を行いました。

市は立教大学観光学部と連携し、同学部の実習生を受け入れており、今年はホテル季古里が受け入れに協力されました。

古川さんは4種類のリンゴジュースの飲み比べなど同ホテルならではのメニューを提案した他、シャンプーやボディソープといったアメニティグッズの質の向上、ホームページの改善などを提案しました。

「インターンシップを通して、自主性や計画性、柔軟性など自分に足りなかったことに気づいたので、今後の課題にしたい」と古川さん。「アクセスが大変で、最初は何もなくてさびしい所と思っていましたが、さまざまな人とふれあい、温かさにあふれた町だと思いました」と話していました。





9/28

子 宮川小学校・保育園で緊急時の帰宅訓練を実施 子どもを保護者へ確実に引き渡す訓練

特レポ

大雨に伴う土砂災害や河川氾濫が予想される際、児童と園児を確実に保護者に引き渡す「緊急時帰宅訓練」が、宮川小学校で行われました。自然災害が起きやすい山と川に囲まれた同校と宮川保育園が初めて行った訓練で、欠席者を除く児童6人と園児4人がそれぞれの家族の協力を得て行いました。

児童たちは、緊急放送が入るとランドセルを背負って体育館に集合し、続いて園児たちも職員に見守られながら体育館へ。この後、子どもの引き渡しを各家庭にメールで連絡しました。保護者は案内に従って車や徒歩で来校し、職員は保護者を確認して子どもを引き渡しました。

車で迎えに訪れた園児の父親、松永宗憲さんは「幅広い災害を想定して訓練してもらえるので、安心ですね」と話していました。



9/29

児 市認知症キャラバンメイトなどが古川小で実施 児童へ初めて「認知症キッズサポーター養成講座」

認知症に対する正しい知識や具体的な対応方法等を市民へ伝える「飛騨市認知症キャラバンメイト」の皆さんやもの忘れ相談窓口「オレンジの森」のスタッフ、飛騨署員などが古川小学校を訪れ、小学4年生80人を対象に「認知症キッズサポーター養成講座」を開催しました。

講座では、認知症の人への接し方として「驚かせない」「急がせない」「心を傷つけない」の3つが大切であることを強調。「相手の目の高さで優しく、ゆっくり、分かりやすい言葉で話して」「何度も同じことを尋ねるかもしれないけれど、優しく接して」などとアドバイスしました。

受講した西野司竜君は「認知症の人に会ったら心優しく対応して、心が痛まないようにしてあげたい」と感想を話していました。



9/29

飛 飛騨市×中日ドラゴンズでふるさと納税コラボ返礼品を制作

飛騨市と中日ドラゴンズが協力してふるさと納税の返礼品を制作し、寄附の受付を開始しました。

事業は「飛騨市の子どもたちをスポーツで元気に」をテーマに、市内事業者がドラゴンズのマスコット「ドアラ」やドラゴンズのイラスト・ロゴ等を使って新たに開発した返礼品を中心にふるさと納税の寄附を募るものです。

寄附金は、市内スポーツ少年団の備品や環境整備、プロスポーツに普段接する機会が少ない子どもたちを対象に行うプロ野球観戦ツアーなどに活用します。

返礼品は、ドアラが包装に登場する地酒や、味噌煎餅、新開発のスープを使ったラーメン、ドラゴンズブルーで青く色づけした和ろうそく、根尾昂選手の市後援会制作オリジナルTシャツなど計12商品。来年以降、各事業者の店舗等での販売も予定されています。

